長浜市埋蔵文化財調査資料第 145 集

物 部 遺 跡

第 26 次調査報告書

―ガソリンスタンド・店舗建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査―

2014・3

滋賀県長浜市教育委員会

序　文

長浜市は滋賀県の北東部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接しています。市域の東北部は日本武尊で有名な県内最高峰の伊吹山から連なる伊吹山系の山々が連なり、西は琵琶湖に面し水鳥が集い、夕陽の美しい湖岸風景が広がっています。平野には琵琶湖に注ぐ姉川や草野川、高時川や余呉川等により形成された水と緑豊かな田園風景が残る湖北平野が広がっています。優れた自然景観を有しています。

また、この地には北國街道や北國脇往還が通り、東海・北陸・近畿との交通の要衝の地でもあります。豊臣秀吉の出世城である長浜城跡や国史跡小谷城跡、賤ヶ岳、姉川古戦場をはじめ、名勝史跡竹生島、史跡小谷城跡・史跡北近江城館跡群など戦国時代の群雄割拠の舞台ともなりました。また、古墳時代では史跡古保利古墳群などでは広範な交流を示すような遺物も出土しています。国宝木造十一面観音立像をはじめとする観音像などの仏像を、数々の困難にも私たちの先祖代々の住民が守り抜き、現在の私たちに優れた仏教美術と深い信仰を伝えています。このような歴史遺産と伝統を次世代により良い形で伝えることが、現在に生きる我々の責務と考えます。

今回報告いたします物部遺跡は、長浜市高月町に位置する弥生時代から古墳時代を中心とした大規模集落跡とされている遺跡です。長浜市内には種類や規模は様々ですが、遺跡の数が 830 あります。遺跡は埋蔵文化財と言われるように、土の中に埋蔵された過去の人々の生きた証拠です。住居跡や古墳などの遺構や土器などが過去の生活、歴史を語ってくれます。

これまで市内でも重要な遺跡を確認のための調査をおこなったり、開発などによって破壊される遺跡を記録と言う形で保存し、後世に伝えるための発掘調査をおこなっていますが、市内にある多くの遺跡のうち、発掘調査が行われているのはごくわずかです。しかし、ごくわずかの成果でも、それを積み重ね、つなぎ合わせることによって大きな成果となることもあり、日々地道な作業をおこなっています。

今回の調査は、過去の調査と同様に、弥生時代後期の竪穴建物や弥生土器などが出土しました。なかでも竪穴建物は大型のもので、有力者か大家族の住居あるいは集会所などの目的が考えられますが、今回の調査は部分的なため遺構の性格を明確にすることは出来ませんでした。今後の調査の進展が期待されます。

今回刊行いたしました報告書が、郷土の歴史を学ぶ資料となるとともに、地域の文化財をより深く理解していくうえで御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査の実施並びに報告書の作成にあたりまして、御理解と御協力をいただきました開発事業者、土地所有者、地元の方々、並びに関係諸機関に対しまして、厚くお礼申しあげますとともに、今後とも文化財保護行政に一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年３月

長浜市教育委員会
教育長　北川 貢造

例　言

１．本書は、平成 25 年度に長浜市教育委員会が実施した、ガソリンスタンド・店舗建築工事に伴う、長浜市高月町東物部字御苗代１番１ほか９筆に所在する物部遺跡発掘調査報告書である。

２．本調査は、長浜市教育委員会が民間開発事業者から委託を受けて実施したものである。

３．発掘調査並びに整理調査は沢村が担当した。

４．本書で使用した方位は磁北、高さは東京湾平均海面高度、遺構埋土等の土色については標準土色帖に基づいている。

５．本書の執筆および編集、遺構・遺物写真撮影は沢村が行った。

６．遺物や写真・図面などの調査に関わる資料は長浜市教育委員会が保管している。

７．調査の実施にあたり、地元の方々並びに関係機関のご理解とご協力をいただいた。謝意を申し上げる。

目　次

序文・例言・目次

第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査にいたる経緯 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 1
　第３節　整理等作業の経過 …… 1

第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
　第１節　地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 3

第３章　調査の方法と成果 …… 4
　第１節　調査の方法 …… 4
　第２節　層序 …… 5
　第３節　調査の成果 …… 7
　（１）SI01 …… 8
　（２）SI02 …… 15

第４章　総括 …… 20

挿図目次

図１　長浜市位置図 …… 2
図２　長浜市平野部の地形 …… 2
図３　周辺の遺跡 …… 3
図４　調査対象地位置図 …… 4
図５　調査区位置図 …… 4
図６　トレンチ壁面（北・東）土層堆積状況 …… 5
図７　トレンチ壁面（南・西）土層堆積状況 …… 5
図８　調査区平面図 …… 7
図９　平面・断面図 …… 8
図 10　SI01 遺物出土状況図 …… 11
図 11　SI01 出土遺物実測図（１） …… 12
図 12　SI01 出土遺物実測図（２） …… 13
図 13　SI01－SK1 出土遺物実測図（１） …… 13
図 14　SI01－SK1 出土遺物実測図（２） …… 14

図 15　SI02 平面図 …… 15
図 16　SI02 遺物出土状況図 …… 16
図 17　SI02 出土遺物実測図 …… 17
図 18　SI02 出土遺物（礫石器）実測図 …… 17
図 19　周辺調査状況図 …… 21

表目次

表１　土色・土質一覧表 …… 6
表２　物部遺跡 26 次調査出土遺物観察表（１） …… 18
表３　物部遺跡 26 次調査出土遺物観察表（２） …… 19
表４　物部遺跡発掘調査（確認・本掘調査）一覧 …… 22

図版目次

図版１　調査前状況（北西から）
重機掘削状況（北西から）
作業状況（南から）
図版２　遺構検出状況（東から）
SI01 床面付近遺物出土状況（西から）
SI01 床面遺構検出状況（南から）
図版３　SI01 土層断面（北西から）
SI01－SK1 検出状況（南から）
SI01－SK1 土層断面（西から）
図版４　SI01－SK1 完掘状況（北から）
SI01－SK2 検出状況（南東から）
SI01－SK2 土層断面（西から）
図版５　SI01－SK2 完掘状況（南から）
SI01－SK3 土層断面（北東から）
SI01－SP1 土層（西から）
図版６　SI01－SP2 土層断面（西から）
SI01－SP3 土層断面（南から）
SI01－SD1 土層断面（南から）
図版７　SI01 完掘状況（東から）
SI01 完掘状況（南から）
SI01 完掘状況（北東から）
図版８　SI01 土玉出土状況（南から）
SI02 遺物出土状況（東から）
SI02 完掘状況（東から）
図版９　トレンチ壁面土層断面（南から）
埋戻し状況（西から）
埋戻し後状況（西から）
図版 10　出土遺物１
（SI01・１～12）
図版 11　出土遺物２
（SI01・13～20）
図版 12　出土遺物３
（SI01・22、23、29、32、35）
図版 13　出土遺物４
（SI01・24～36、S1～S6）
図版 14　出土遺物５
（SI02・37～42、S7、S8）
（SI01・21）

第１章　調査の経過

第１節　調査にいたる経緯

今回の調査は、ガソリンスタンド・店舗建築工事に伴う本発掘調査である。

本件は、平成 25 年度に事業者より協議があり、埋蔵文化財発掘の届出が、平成 25 年８月 12 日に事業者から提出された。

当該地は平成 11 年度に造成計画がなされ、旧高月町教育委員会が同年度に試掘調査を行った。調査の結果、遺構が多数検出されたが、造成については１ｍ程度の盛土だけのため、遺構に影響が及ばないと判断され、慎重工事対応となった。

平成 11 年度の試掘調査の結果をもとに、事業者とその保存について協議を行った結果、店舗等については掘削深度が浅いため保護可能であるが、ガソリンスタンドのタンク設置個所について掘削深度が遺構面より深くまで及ぶことから、遺構が保護出来ないと判断された。したがって、工事対象面積 510 ㎡の内、タンク部分の 91 ㎡について本発掘調査を実施することとなり、長浜市教育委員会が物部遺跡第 26 次調査として本発掘調査を行うこととなった。

調査の体制は下記のとおりである。

平成 25 年度

長浜市教育委員会	教 育 長	北川　貢造
	教育部長	中井　正彦
	教育総務課理事兼教育総務課長事務取扱	福井　清和
文化財保護センター	所　　長	森口　訓男
	参　　事	黒坂　秀樹
	主　　幹	池嵜　陽一（調整担当）
	主　　査	沢村　治郎（調査担当）

第２節　発掘作業の経過

現地調査は、平成 25 年９月 25 日から平成 25 年 10 月 24 日にかけて実施した。

作業経過は、９月 25 日に重機による遺構面直上までの掘削をおこない、順次人力による遺構検出作業、遺構の半截、遺構完掘を行った。図面作成などの測量および記録写真撮影は工程ごとに行った。調査終了後は重機による埋戻しを行い、原因者に引渡した。

第３節　整理等作業の経過

整理調査は、現地調査終了後から平成 26 年３月までの期間中に実施した。

出土した遺物は、遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡の性格や時期を示し得るもので実測可能なものを選んだ。

選別した遺物については、実測図、遺物観察表を作成した後、デジタルトレース、写真撮影を行った。現地で測量した図面類はデジタルトレースをして、編集を行った。最後に遺物収納作業等を行った。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、北は福井県、東は岐阜県に接している。県内では西は高島市、南東部は米原市に接している。

市域の北東部には県内最高峰の伊吹山から連なる伊吹山地が広がる。この山地を源流に姉川、草野川、高時川、余呉川などが南流あるいは西流し、湖北平野を形成している。低地と山地の境界は断層崖となり、柳ヶ瀬断層や関ヶ原断層など大規模活断層に一致する。過去の地震でも慶長地震、姉川地震など大きな被害が出ている。また、琵琶湖湖底にも遺跡があり、集落が水没したという伝承も残る。南東部の平野には孤立山塊が分布し、関ヶ原低地帯の西部にあたっている。平野の西側は琵琶湖に面し、水鳥が飛来するなど自然景観豊かな地形となっている。

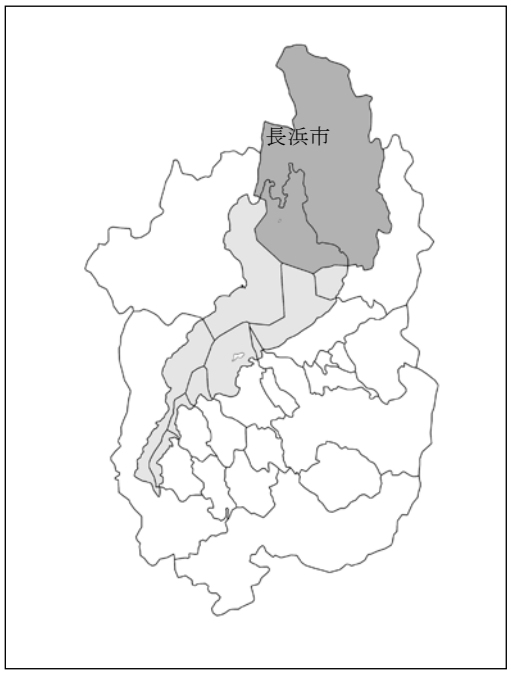


図１　長浜市位置図

地質は主に古生層で、約２～３億年前の海底に堆積した硬い地層（基盤岩）からできており、特に平野部では砂岩系や粘板岩が分布している。基盤岩の上に新生代第三紀、第四紀の堆積層が広がり、平野部を形成している。

気候は瀬戸内海式気候に属しているが、冬期は地形的に日本海からの雪雲が伊吹山地にぶつかるため降雪が多く、市域の北部は豪雪地帯および特別豪雪地帯に指定されている。

市域は東西 25km、南北 40km、総面積は 680.79 ㎢（琵琶湖を含む）で、人口は 122,666 人（平成 26 年２月１日現在）である。

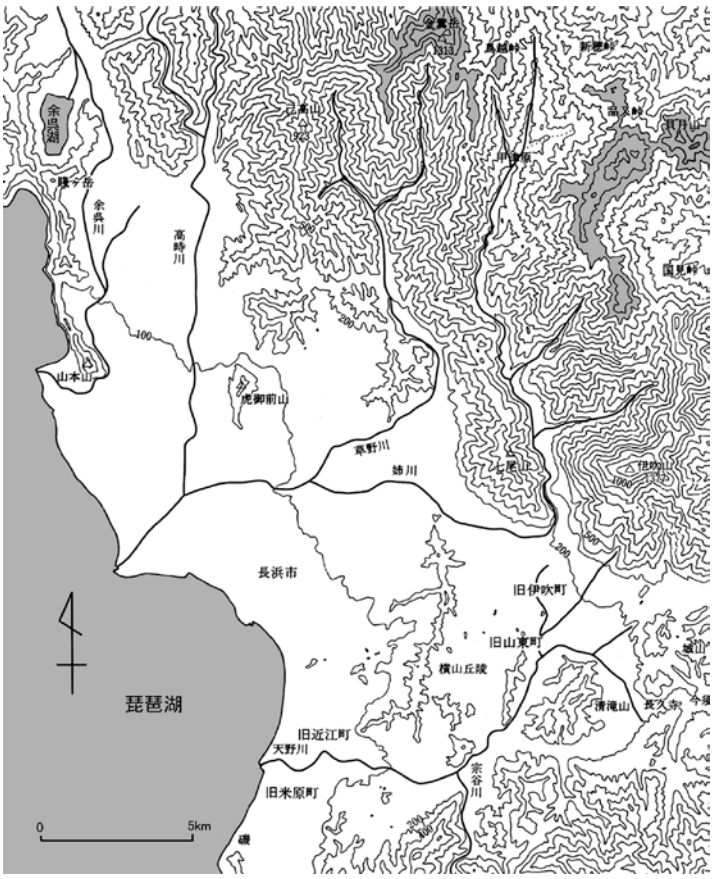


図２　長浜市平野部の地形

第２節　歴史的環境

物部遺跡は長浜市高月町東物部・西物部・横山・磯野・唐川地先に広がる集落跡として周知されている。高時川右岸に位置し、高時川によって形成された沖積・扇状地に位置する。時代は弥生時代中期から平安時代である。竪穴建物・掘立柱建物・土坑・溝・古墳周溝・玉作工房・井戸が検出されている。遺物は縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・玉類・石器・鉄器などが出土している。

物部遺跡は、過去に数次の調査が実施されている（図 19　周辺調査状況図、表４　物部遺跡発掘調査（確認・本掘調査）一覧参照）。調査がまとまって行われているのは、大きく分けて３ヶ所であり、東物部集落の北側と、東物部集落の北東の小字北池ノ尻を中心とした周辺、および北近江リゾート周辺である。数多くの竪穴建物や古墳跡などが出土している。

物部遺跡の周辺には多くの遺跡が広がっており、物部遺跡と重複するものもある。瓢塚古墳は古墳であるといわれているが、これまでのトレンチ調査では古墳を示す遺構・遺物は検出されていない。上生塚古墳・下生塚古墳は水田中に塚状にマウンドが残っているが、未調査のため詳細は不明である。物部狐塚遺跡は古墳時代から平安時代の遺物の散布地である。中世の館跡である西物部遺跡は土塁等が残る。横山東遺跡は散布地で時期は不明である。

物部遺跡の周辺には集落跡では唐川西遺跡（弥生時代から平安時代）、横山遺跡（縄文時代から中世）、柳野遺跡（弥生時代から平安時代）、井口遺跡（古墳時代から平安時代）、井口天満宮遺跡（縄文時代～中世）が分布している。横山遺跡・井口遺跡では数次の調査が行われており、横山遺跡では竪穴建物や墓、玉作工房などが、井口遺跡では竪穴建物や掘立柱建物などが出土している。古墳では県史跡の横山神社古墳（22）・501-131、兵主神社古墳が分布している。城跡・館跡として高月横山城（時代不明）、唐川城（時代不明）、高田城（時代不明）が立地し、寺院跡・神社跡として横山神社遺跡（平安以降）、東物部遺跡（寺院跡・時代不明）、常住庵遺跡（寺院跡・時代不明）がある。横山神社には平安時代も末期から鎌倉時代初期にかけての作と考えられている「木造馬頭観音立像」（長浜市指定文化財）が知られている。

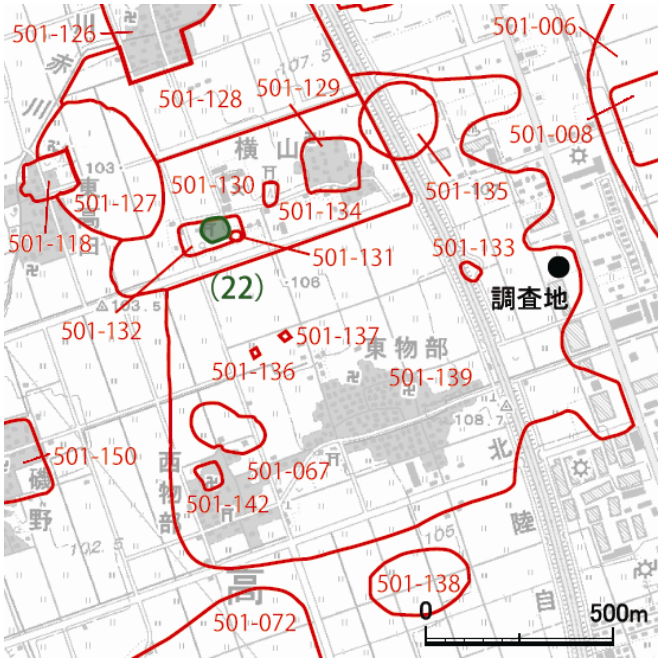


図３　周辺の遺跡

501-006	井口遺跡	501-008	井口天満宮遺跡	501-067	物部狐塚遺跡
501-072	柳野遺跡	501-118	高田城遺跡	501-126	唐川城遺跡
501-127	唐川西遺跡	501-128	唐川遺跡	501-129	高月横山城遺跡
501-130	横山遺跡	501-131	横山神社古墳	501-132	横山神社遺跡
501-133	瓢塚遺跡	501-134	兵主神社古墳	501-135	横山東遺跡
501-136	下生塚古墳	501-137	上生塚古墳	501-138	東物部遺跡
501-139	**物部遺跡**	501-142	西物部遺跡	501-150	常住庵遺跡

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

調査は重機を用いて造成土および旧耕土を掘削し、遺構面を検出した。調査区の面積は 87.3 ㎡である。なお、平成 11 年に試掘調査を行った際の試掘跡を調査区東半で検出した。ただし、試掘調査では写真記録はあるものの、トレンチおよび遺構の位置等の図面が作成されていなかったため、今回の調査で検出した遺構が試掘調査でどの範囲まで検出出来ていたかを知ることは出来なかった。

基本的な調査方法は、柱穴は主柱穴であったため四分法を用い、土坑については原則四分法を用いて断面実測、写真撮影を行った後、遺構完掘を行った。遺物の取り上げ方法については、遺構、層位ごとに取り上げを行った。

写真撮影は、遺構検出、遺構断面、完掘状況などの各段階ごとに必要に応じて適宜 35㎜ の白黒フィルム、リバーサルフィルムを用いて撮影した。

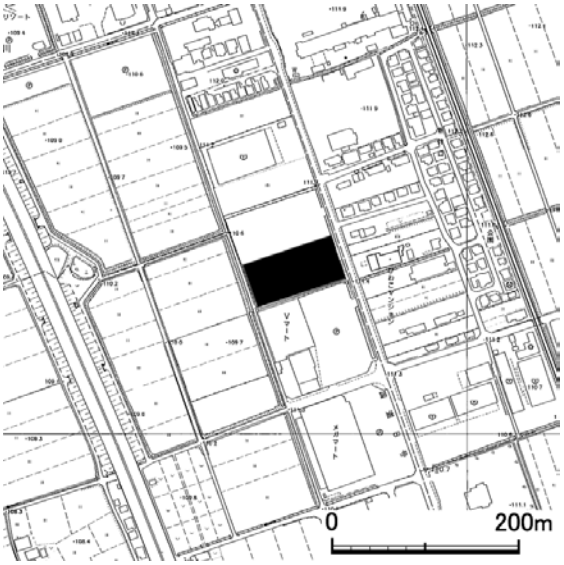


図４　調査対象地位置図(S=1/8000)

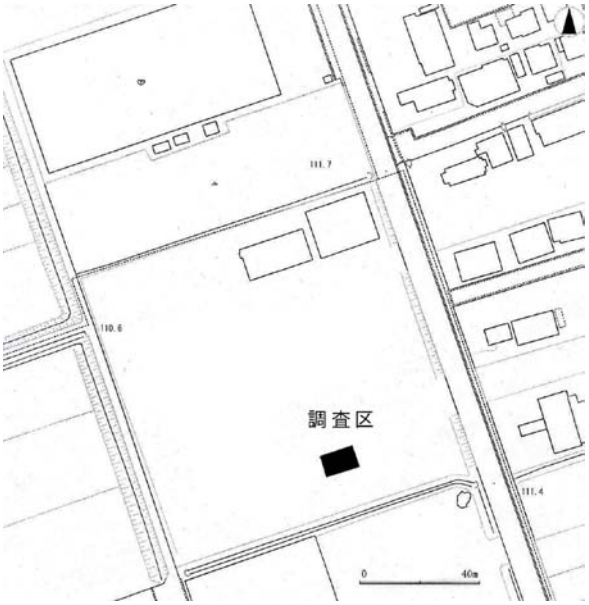


図５　調査区位置図(S=1/250)

第２節　層序

現況は、駐車場として利用されている場所で、調査地は前述の通り造成土により水田が埋め立てられており、東側を南北に走る国道８号線とほぼ同じ高さである。

調査地の土層堆積は、第１層が 10YR4/3 にぶい黄褐色礫からなる造成土で、３層に分けて埋め立てられていた。単位は上から層厚約 0.20m、層厚約 0.40m、層厚約 0.50mで、土・ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ含む。第２層が 2.5Y3/1　黒褐色細礫混極細粒砂の旧耕土で地表面から 1.13m～1.33m、第３層が 2.5Y5/6　黄褐色粗粒シルトの地山で、地表面から 1.33mから下となっている。

遺構は旧耕土直下から存在するが、遺構が構築あるいは機能、廃絶した時期の地表面の高さは耕作等により影響を受けているとみられることから不明である。地山面の標高は約 109.30mである。

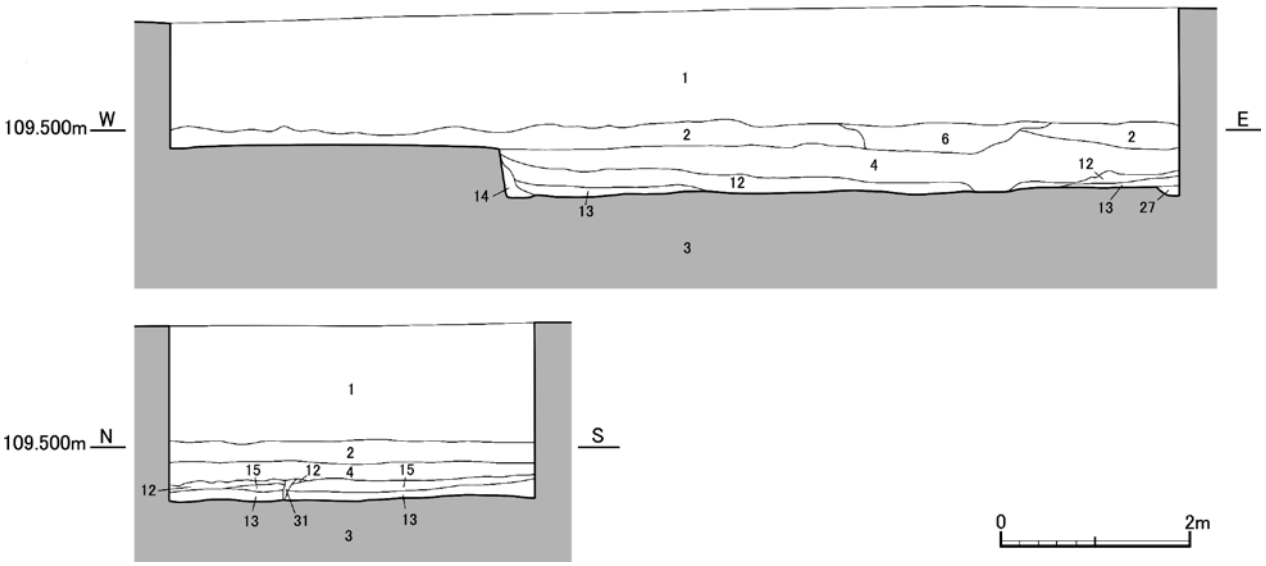


図６　トレンチ壁面（北・東）土層堆積状況（S-1/80）

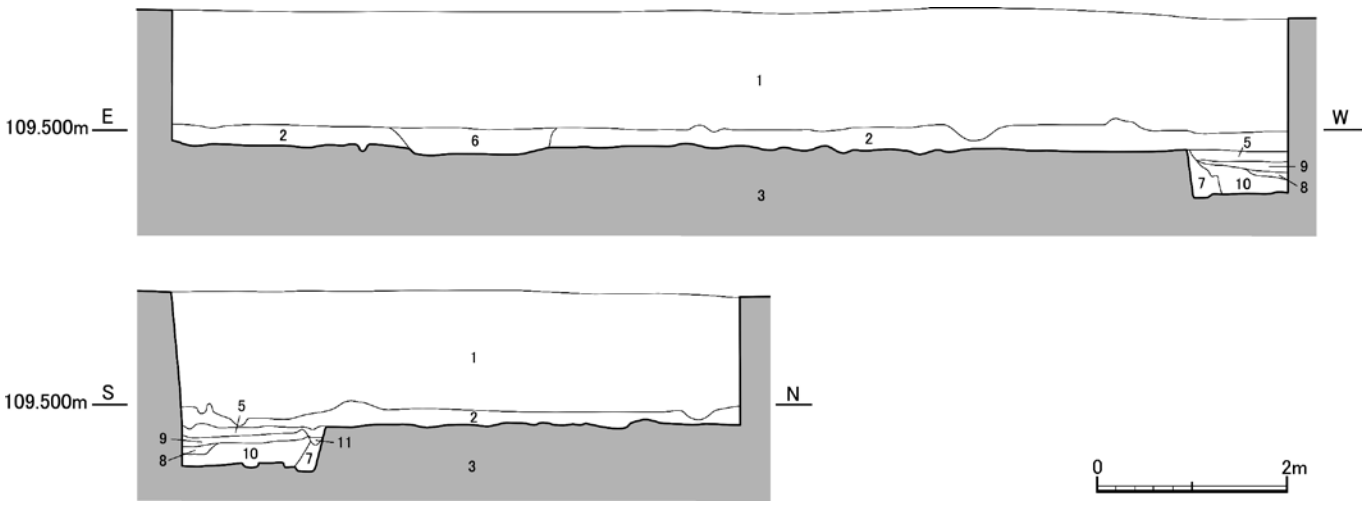


図７　トレンチ壁面（南・西）土層堆積状況（S=1/80）

表1　土色・土質一覧表

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	礫	造成土
2	2.5Y3/1	黒褐色	細礫混極細粒砂	旧耕土
3	2.5Y5/6	黄褐色	粗粒シルト	地山
4	10YR2/2	黒褐色	極細粒砂	
5	10YR3/3	暗褐色	シルト	
6	2.5Y3/1	黒褐色	細礫混極細粒砂	②に③のブロック混
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒シルト	
8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	極細粒砂	
9	10YR3/4	暗褐色	極細粒砂	
10	10YR4/3	にぶい黄褐色	極細粒砂	
11	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	
12	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂	
13	10YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
14	10YR3/3	暗褐色	極細粒砂	⑬に⑩のブロック混
15	10YR4/4	褐色	極細粒砂	
16	10YR3/2	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	
17	2.5Y4/3	オリーブ褐色	極細粒砂	
18	10YR3/3	暗褐色	細粒砂混極細粒砂	
19	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	
20	2.5Y4/3	オリーブ褐色	極細粒砂	10YR4/6 褐色極細粒砂混
21	5Y3/2	オリーブ黒色	極細粒砂	
22	2.5Y3/2	黒褐色	極細粒砂	
23	5Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
24	10GY7/1	明緑灰色	極細粒砂	地山下層還元色
25	10YR3/1	黒褐色	粗粒シルト	
26	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	
27	10YR3/3	暗褐色	中粒砂混細粒砂	
28	7.5Y3/1	オリーブ黒色	細粒砂混極細粒砂	
29	5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒シルト	
30	5Y3/2	オリーブ黒色	中粒砂混極細粒砂	
31	10YR2/2	黒褐色	極細粒砂	③が混じる
32	1OGY6/1	緑灰色	極細粒砂	

第３節　調査の成果

検出した遺構は、竪穴建物２棟（SI01、SI02）である。遺構はトレンチ外にも続くため、トレンチ壁面での遺構埋土堆積状況は前節を参照していただきたい。

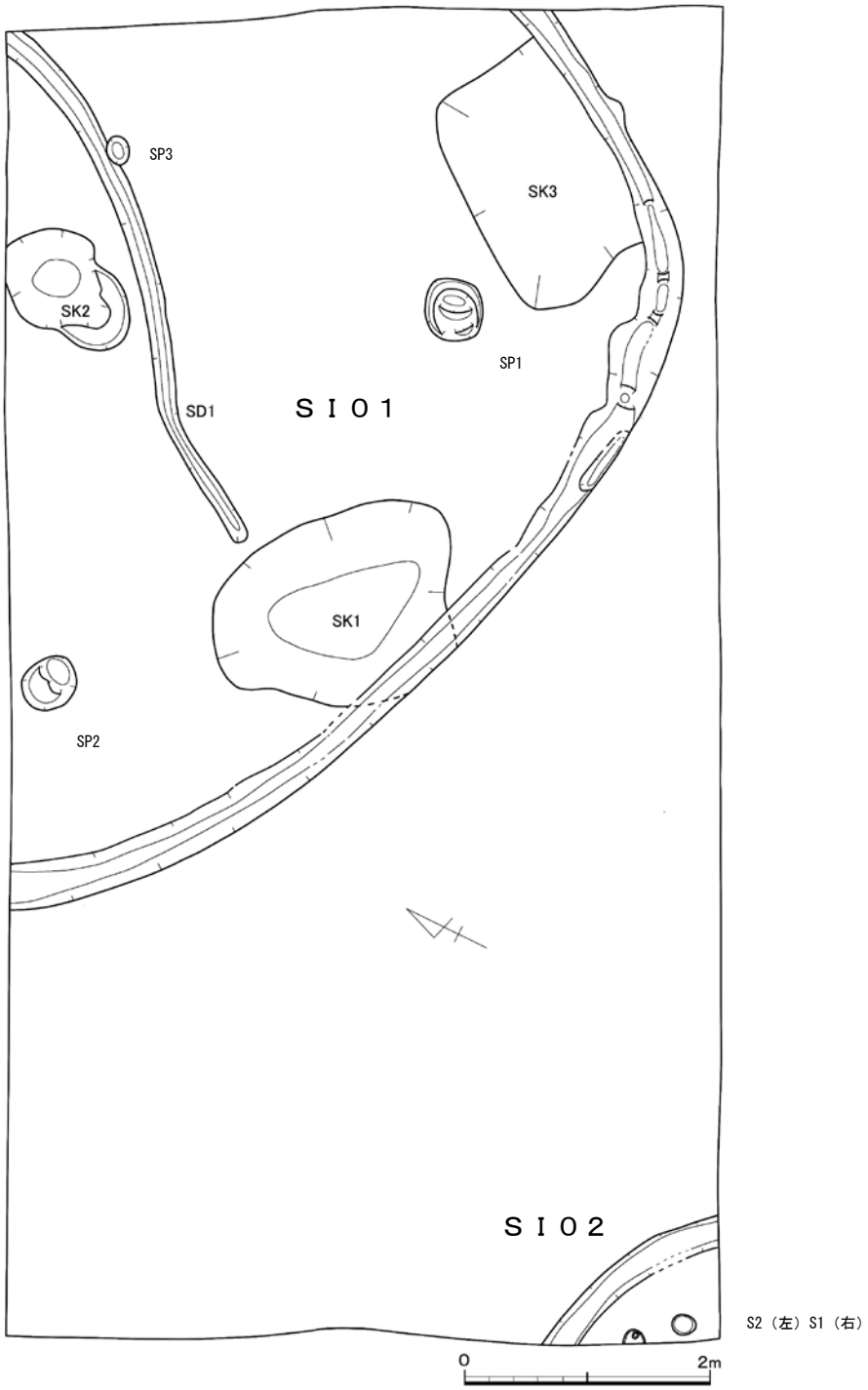


図８　調査区平面図（S=1/60）

（１）竪穴建物　SI01

調査地の北東に位置し、建物の南辺と東辺の一部を検出した。地山面から床面までの深さは0.4m～0.5mである。埋土は主に3層からなり、周辺部から中心にかけて斜行する。壁際は斜めに落ち込むように堆積し、南側は土器を多く包含している状況であった。

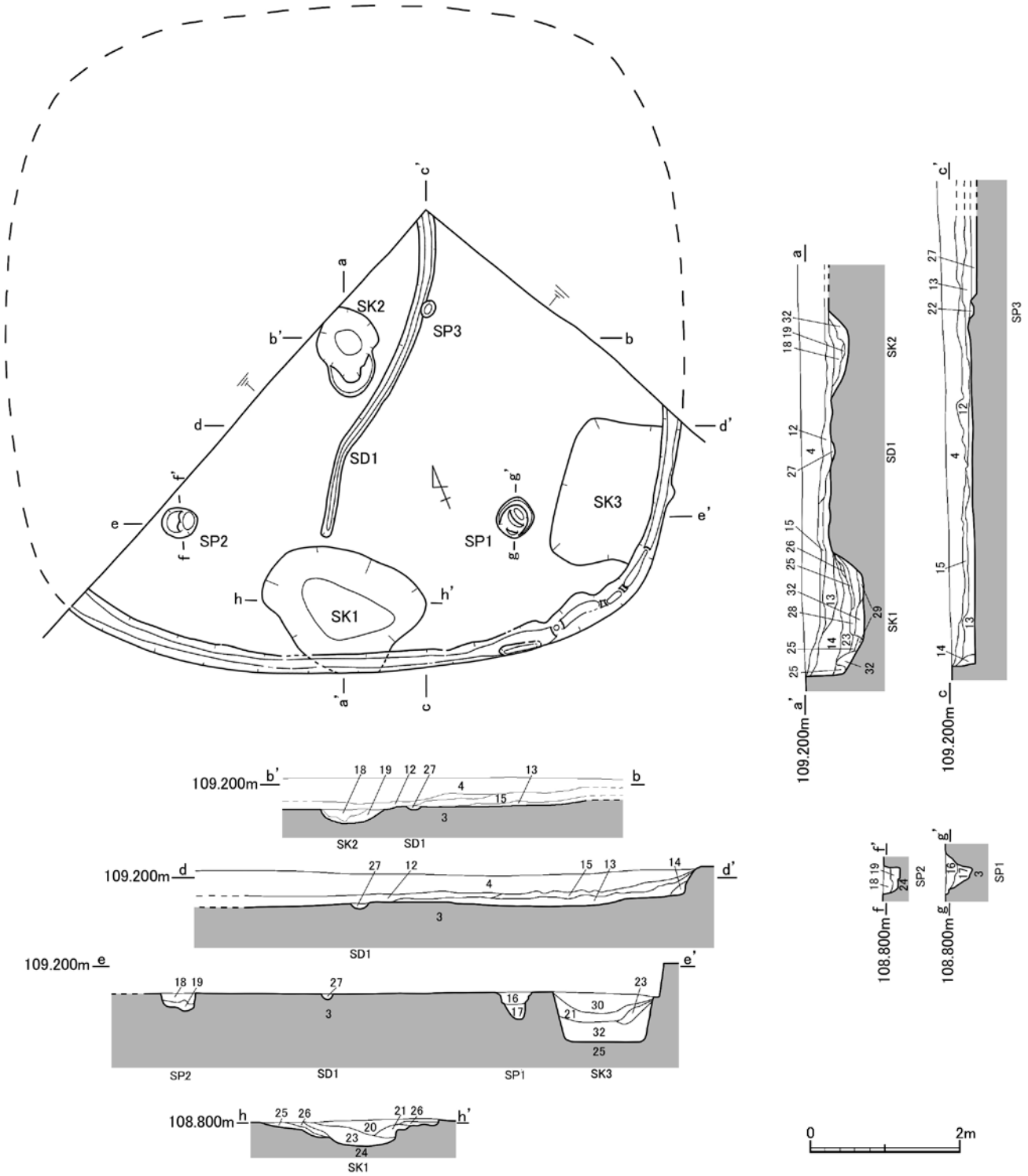


図９　SI01 平面・断面図（S=1/40）

最上層は黒色土で、主な出土遺物は口縁外面に刺突列点文が施された受口状口縁、くの字状口縁、高坏、小型高坏、小さい円形浮文のついた口縁、生駒西麓産とみられる土器片、石等である。図化出来る遺物は少なかった。

２層目は褐色土で、2層目東半付近より縄文土器片が出土している。突帯文の付いた鉢形土器の口縁とみられるものである。混入とみられる。

３層目は、床面から約７cm 上で暗褐色を呈し、角閃石を多量に含んだ土器片が出土しているおそらく生駒西麓産の土器片であると思われる。同様の土器は先述のとおり最上層の黒褐色土からも出土している。３層目では土器片では受口状口縁、高坏脚部、砂岩が９点出土している。また、２層目東半で出土したものと同様の縄文土器とみられる土器片が出土している。砂岩はいずれも加工痕は無かったが、周辺の土質としてこのような石は混じらない土であるため、何らかの目的で使用されたものが廃棄されたものとみられる。同一個体の破片が埋土中の 3.7m離れた所から出土している。

床面は明確な貼床のようなものはみられなかったが、おそらく使用している間に堆積したであろう層はあったとみられる。土層断面では明確に出来なかったが、掘削時には認められた。また、数 mm の礫が SK１周辺を中心に床面付近で散布が認められた。

床面では柱穴・土坑および溝が検出された。柱穴は３基検出した。SP１と SP２は位置関係から建物の主柱穴であるとみられる。

主柱穴１　SI01 - SP１

平面規模が径 0.54m×0.50m、深さが床面から 0.37mである。遺物は弥生土器片が 14 点出土している。

主柱穴２　SI01-SP２

平面規模が径 0.40m×0.46m、深さが床面から 0.24mである。遺物は弥生土器とみられる土器片が３点出土している。

柱穴　SI01-SP３

SD１の南東側で検出した円形遺構である。深さが浅いため柱穴かどうかは不明である。平面規模が径 0.18m×0.24m、深さが床面から 0.04mである。遺物は土器片が１点出土している。

南辺土坑　SI01 - SK１

建物の南辺際中央付近に位置する土坑である。南北 1.64m×東西 2.2m程の不定形である。東西に長い楕円形に近い形状を呈する。掘削時には大きく掘られていたようであるが、埋められていたか、埋まっていく過程で土器や石が放り込まれていたようである。最深部で地山面からの深さが約 90cm、床面からの深さが約 50cm である。

遺物は弥生土器、楕円形の石、高坏、甕の体部、受口状口縁壺の口縁部、長細い石が土坑西側の斜面で検出された。受口状口縁は頸部から上がほぼ完形の状態で上下反転した状態で出土している。また、最下層からは須恵器のような焼成（二次的に熱を受けたものか）の破片が出土している。よほどの高温でないとここれほどの硬質にはならないため、鍛冶や鋳造に関連するものが付近にあった可能性もわず

かながら考えられるかもしれない。

中央土坑　SI01 - SK２

建物の中心に位置するとみられる土坑である。規模は南北 1.2m、東西 0.84mである。南側は 2 段階に底まで下がる形であり、土坑本体としては南北 1.0m程度であったかもしれない。深さは床面から 0.2mである。性格は不明であるが、埋土中から炭化物や焼土片が出土していることから、炉として使用されたことも考えられるが、土坑の壁や底が焼けたような状況は検出されなかった。

遺物は小破片が 9 点出土している。壺類もしくは高坏か器台の脚端部が出土している。

東辺土坑　SI01-SK３

建物東辺の南よりに南北 1.9m、東西 1.25m、深さ 0.7mの長方形を呈する土坑を検出した。埋土は床面の土より若干暗い土であった。底には黒褐色土が堆積していた。

遺物は土器の細片が 11 点で、上層から下層まで同じような入り方であった。概して遺物量は少ない。波状文をもつ破片や焼けて割れたような石が出土している。

溝状遺構　SI01 - SD１

調査区北東隅から中央土坑であるＳＫ２を迂回するようにSK１の手前まで続く南北方向の溝状遺構である。幅 0.22m、深さ 0.1m、長さ 4.66m以上である。溝状に床面の土とは異なる土で埋まっている状態を検出した。実際に機能していた（開削状態にあった）かどうかは不明である。

遺物は弥生土器とみられる破片が１点出土しているのみである。

周壁溝

建物の南辺にある壁際の溝である。幅 25～30 ㎝で、深さ３～14 ㎝程度であり一定していない。底はやや凹凸があり、板状痕跡などはみられなかった。壁には掘削工具の跡が一部残っていた。現代の鋤と同じようなもので、曲線を呈し幅全体を示す痕跡はなかったが、10～15㎝ 程度以上あったものとみられる。

土層の堆積状況からみると、周壁溝だけの埋土というものは検出できなかった。壁沿いに上から黒褐色土が斜めに堆積した状況がみられた。その中に遺物が多く含まれていた。建物が埋没する過程で放棄されたものか、土器を含んだ土を壁際に板などを固定するために入れたなどが考えられる。土器の出土状況としては土器片が堆積の傾斜と同様に斜めに出土している。したがって前者のほうが有力であろうが、後者の場合も板などを撤去した際に土が斜めに堆積したことも考えられよう。

南側周壁溝と SI01-SK１周辺でまとまって土器が出土している。器台（図 11-16）と壺底部（図 11-15）は、細かいハケメ調整がほぼ同じで器台の受部サイズと壺底部がぴったり合うため、製作時から廃棄までセットであったものである可能性もある。残念ながら壺の体部や口縁は不明である。

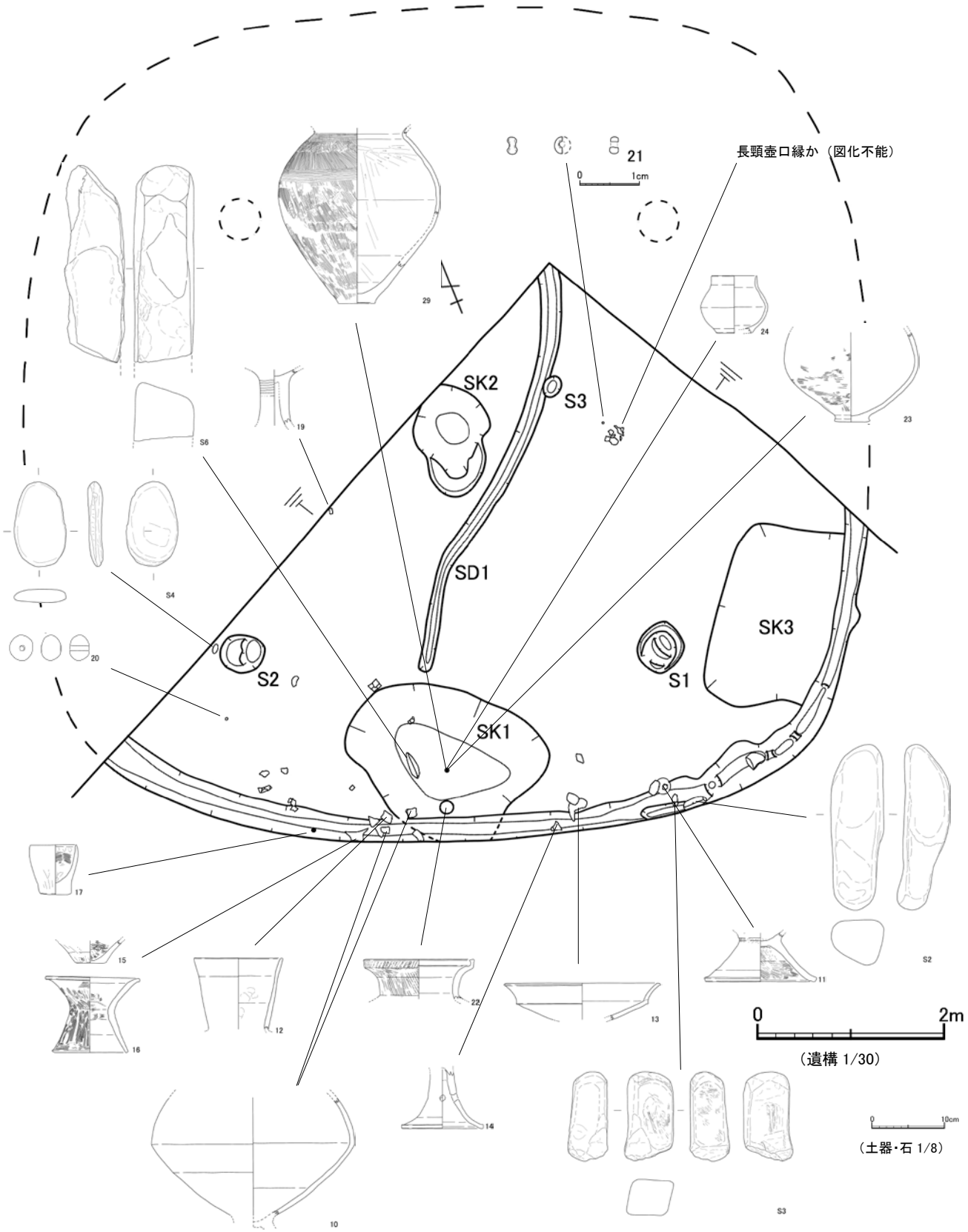


図 10　SI01 遺物出土状況図

SI01 出土遺物

各遺物の詳細は観察表を参照されたい。

埋土上層

埋土下層

床面付近および床面

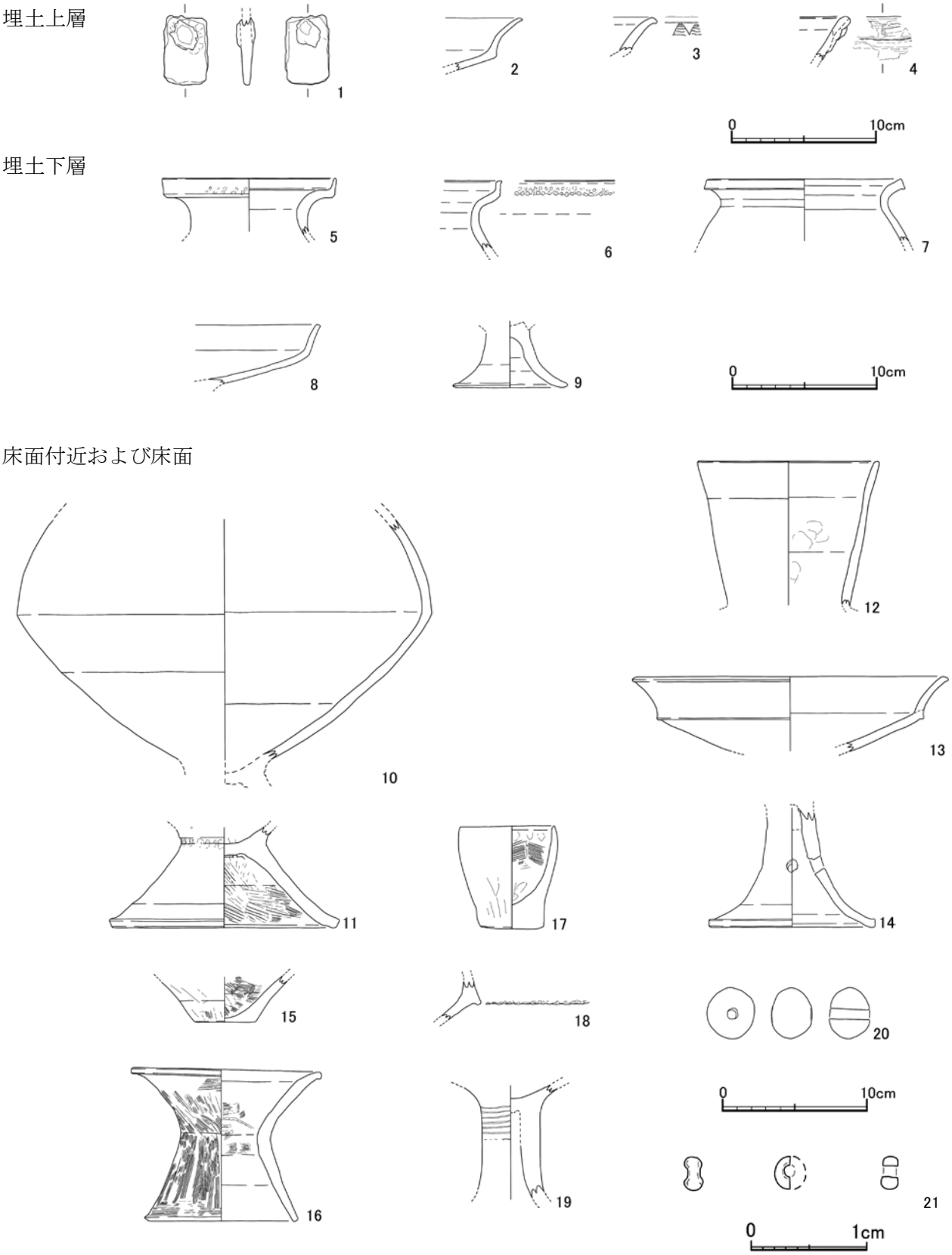


図 11　SI01 出土遺物実測図（１）（土器類 S=1/4、ガラス玉 S=2/1）

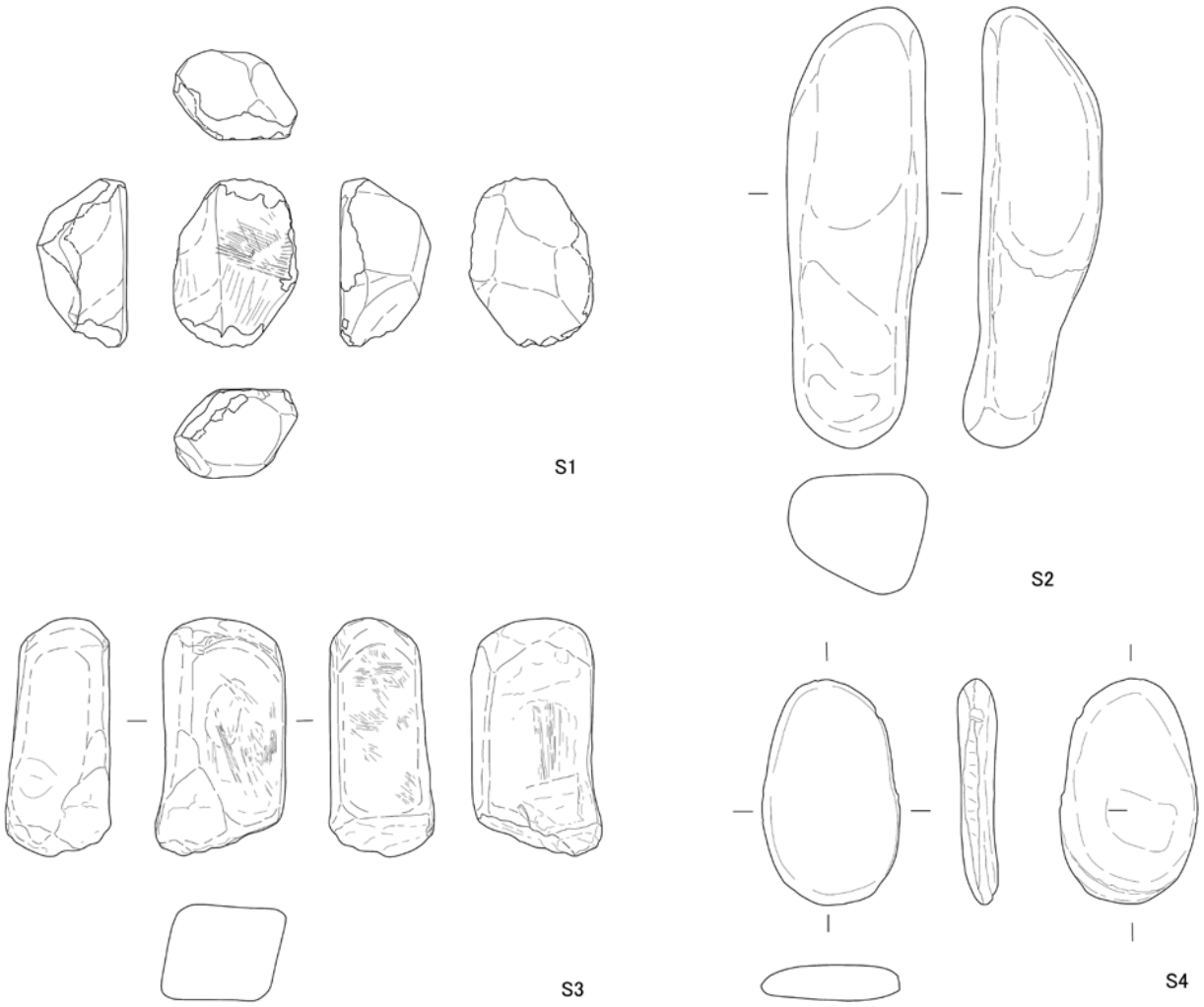


図 12　SI01 出土遺物実測図（２）(S=1/4)

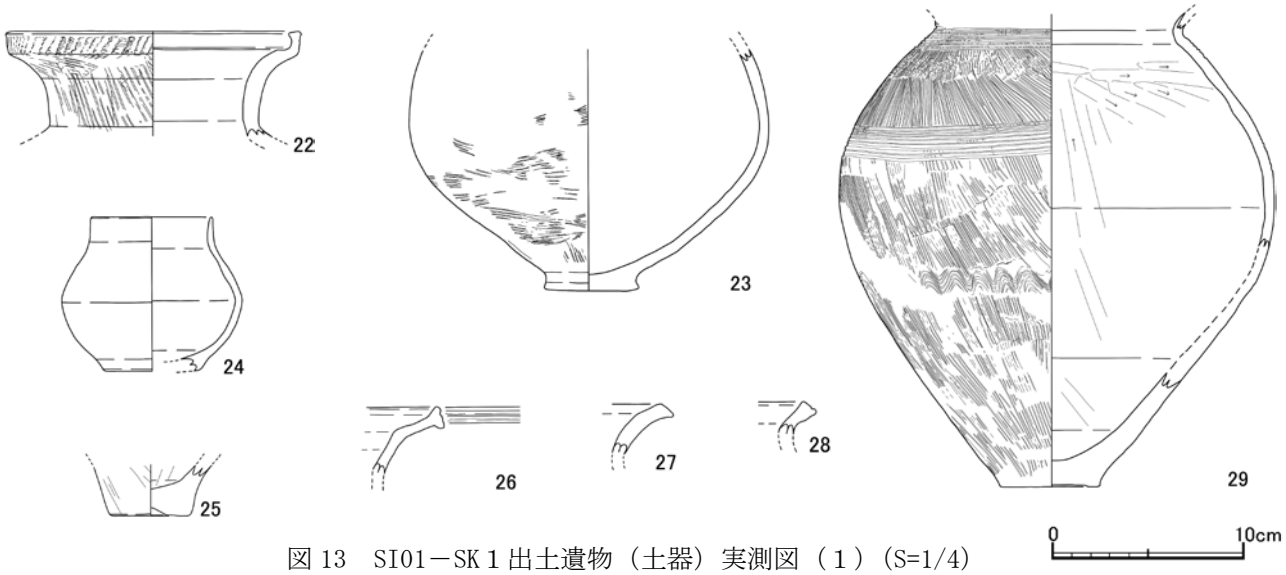


図 13　SI01－SK１出土遺物（土器）実測図（１）(S=1/4)

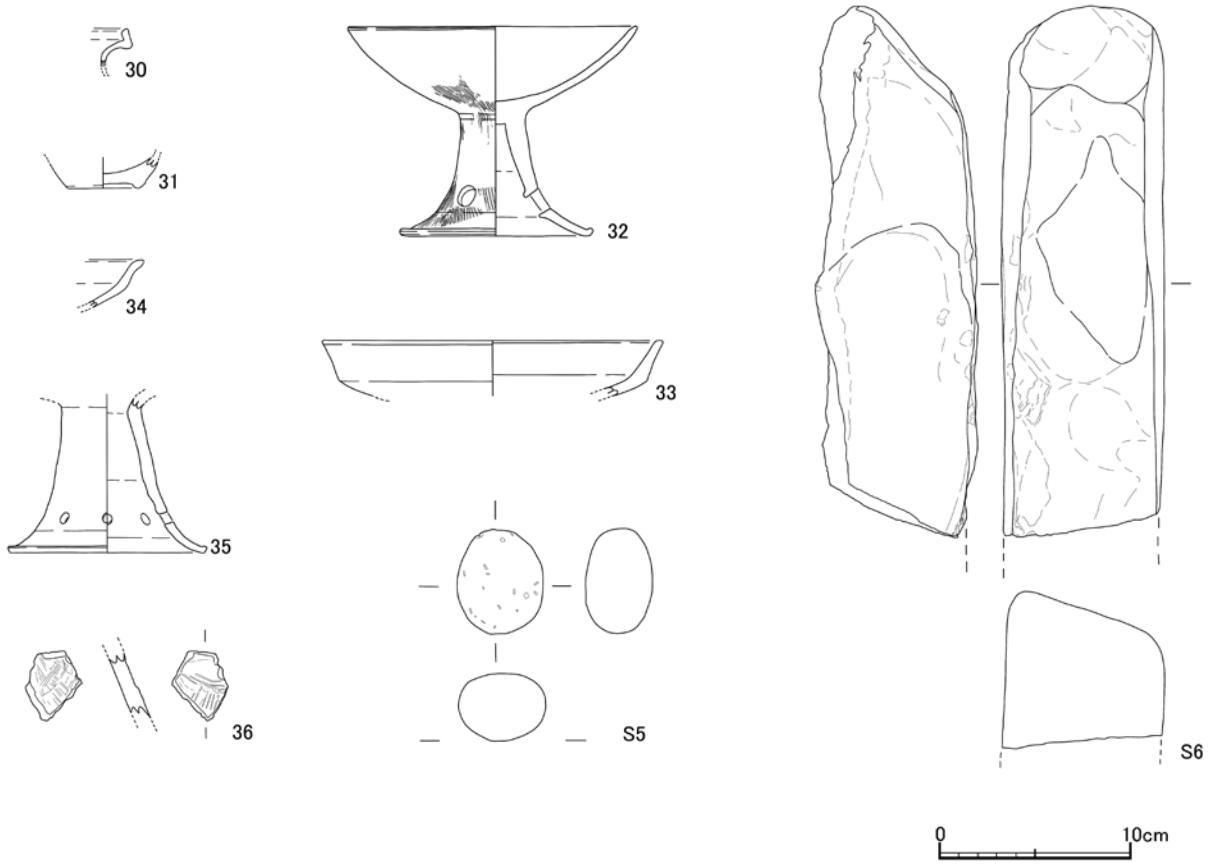


図 14　SI01-SK１出土遺物実測図（２）(S=1/4)

（２）竪穴建物　SI02

調査区南西隅で検出した竪穴建物とみられる遺構である。隅角を検出しただけのため、土坑である可能性もあるが、壁際底に周壁溝とみられる溝状のものが検出されたため、竪穴建物とした。

埋土の状況はSI01と同様であり、上層は黒褐色土、中・下層は褐色土からなり、壁際は黒褐色土と褐色土のブロック土が堆積している状況がみられた。

遺物は埋土中から破片が出土している。完形の土器はなく、床面付近でも破片で出土している。埋土中位付近では壺形土器口縁とみられるやや大きめの土器片が出土している。周壁溝でハケ目調整のある甕体部片が出土しているが図化できなかった。

床面で検出した遺構はピット２基と周壁溝である。

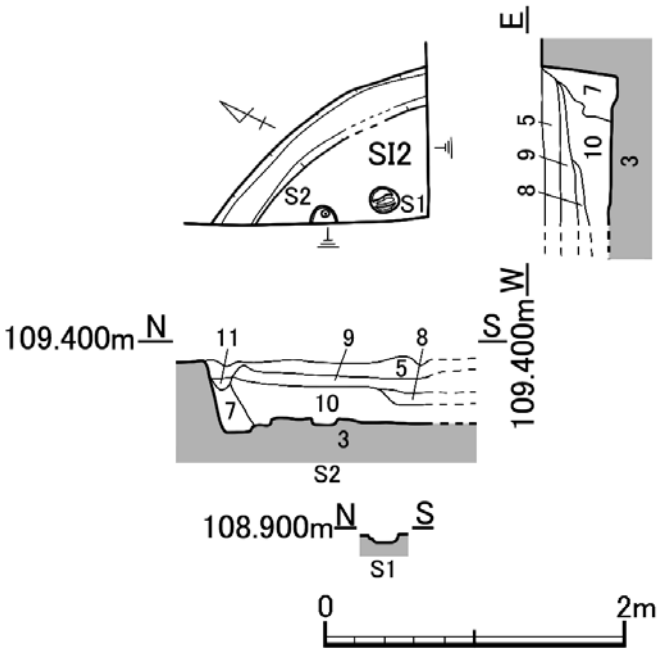


図 15　SI02 平面図（S=1/50）

柱穴　SI02-S１

調査区西壁際で検出したピット状の遺構である。径 0.16m×0.20mほどの浅いくぼみである。約５㎝下げたところ、地山土が検出された。埋土は竪穴建物埋土最下層と同様の土であった。

遺物は高坏形土器脚片、直線文の施文が入る土器片が出土している。

柱穴　SI02-S２

Ｓ１の北側に位置するピット状の遺構である。西側半分はトレンチ外となったため東側半分のみ検出した。径 1.6m×0.10m以上、深さ 0.01mの浅いくぼみである。１㎝ほど下げたところ、地山が検出された。Ｓ１同様埋土は竪穴建物埋土最下層と同様の土であった。

遺物は受口状口縁の甕か壺の破片（図 17－41）が出土した。

周壁溝

壁際で検出した溝状遺構である。建物構築時の掘削による掘方かもしれないが、周壁溝とした。幅 0.24m程度で、深さ 0.06m～0.12m程度である。

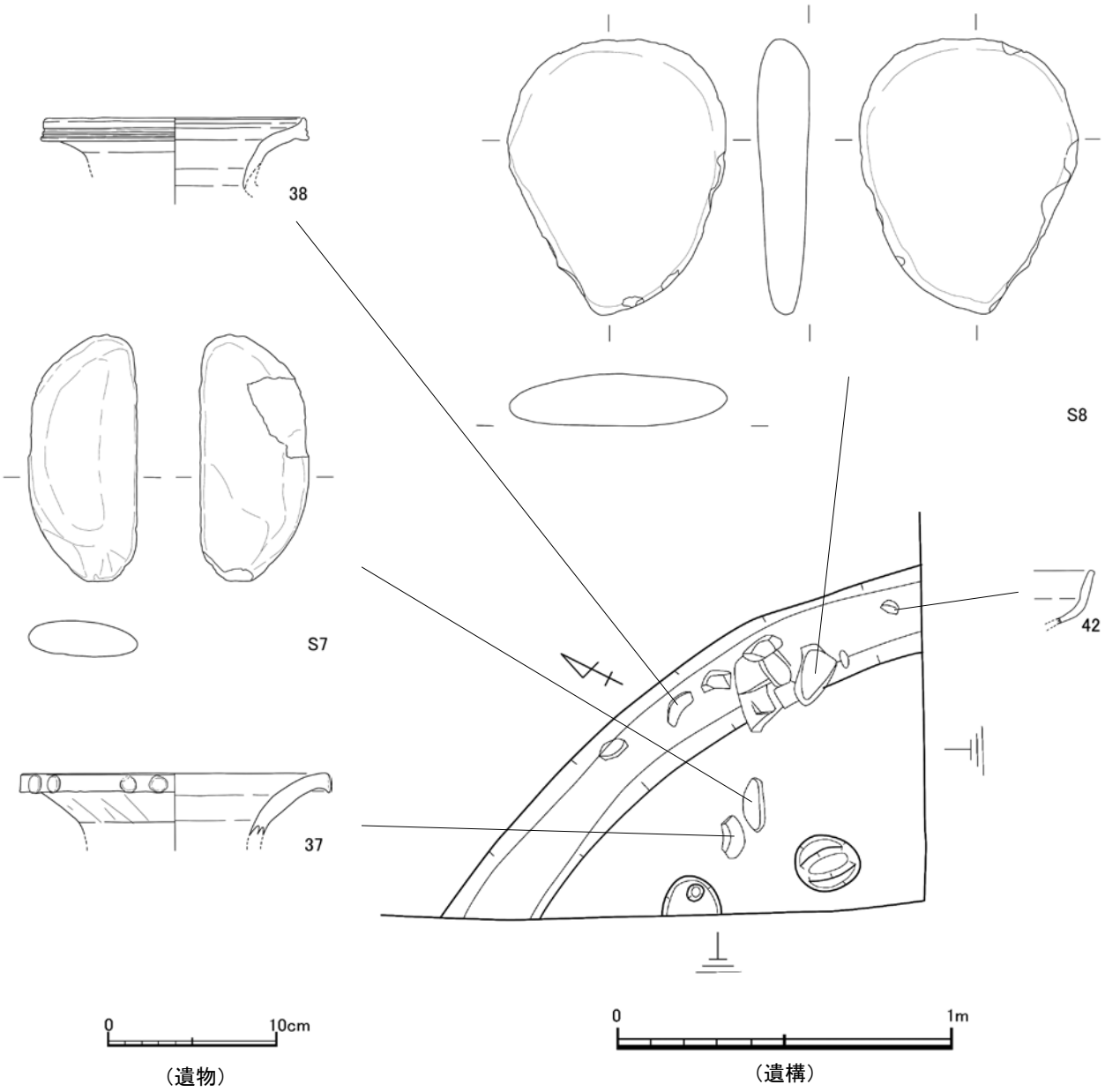


図 16　SI02　遺物出土状況図

SI02 出土遺物

各遺物の詳細は観察表を参照されたい。

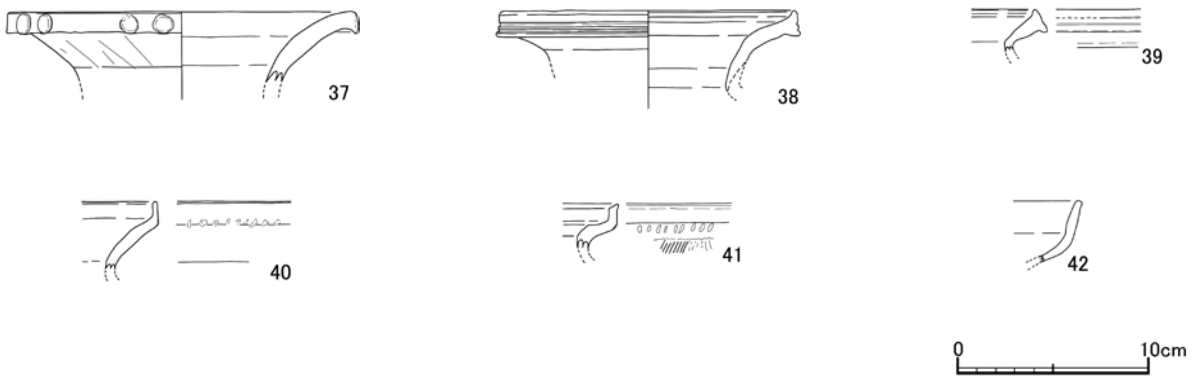


図１７　　SI02 出土遺物（土器）実測図（S=1/4）

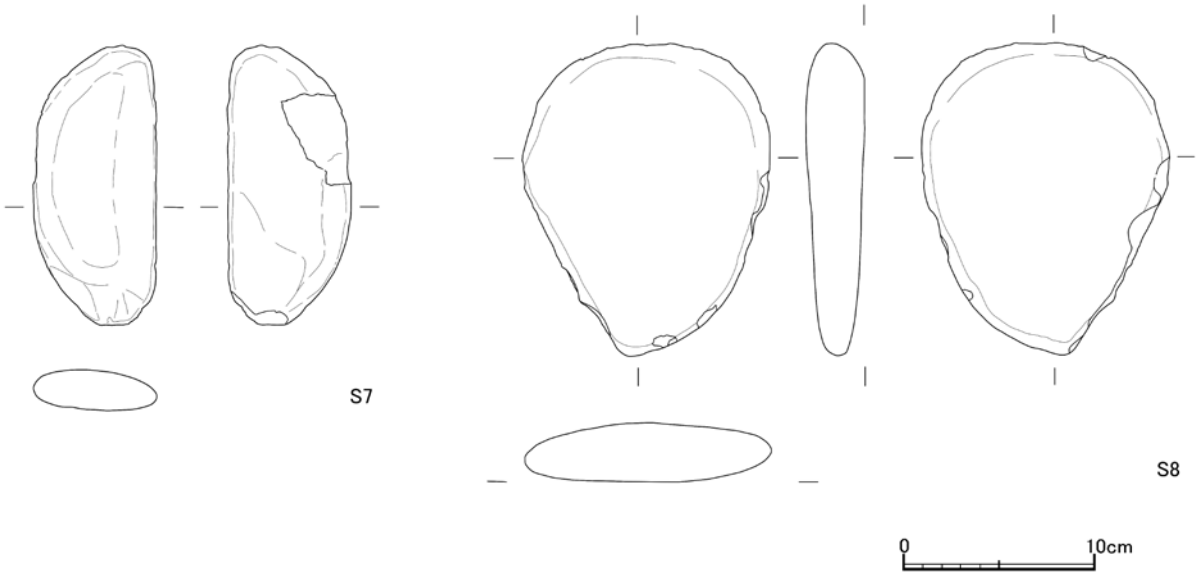


図 18　SI02 出土遺物（礫石器）実測図（S=1/4）

表2　物部遺跡 26 次調査出土遺物観察表（1）

報告書掲載番号	出土遺構	器種	器形	色調 外面	色調 内面	色調 器肉	胎土	焼成	調整 外面	調整 内面	法量	残存率	備考	実測番号
1	SI01 埋土1層目	弥生土器	不明	2.5YR8/1 灰白色	—	N5/0 灰色	やや密 中粒砂を含む 長石、石英を含む	やや良	ナデか	—	残存長　4.7cm	不明	表裏に円形の貼付有	34
2	SI01 埋土2層目	弥生土器	高坏	10YR8/2 灰白色	N5/0 灰色	N5/0 灰色	やや密 粗粒砂を含む	不良	摩耗著しく不明	摩耗著しく不明	残存高　3.5cm	1/10以下	断面実測 取り上げNo.5	13
3	SI01 埋土2層目	弥生土器	高坏か	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	N6/0 灰色	密 粗粒砂を含む	良	鋸歯文、ナデ	不明	残存高　2.3cm	1/10以下	断面実測	15
4	SI01 埋土2層目	縄文土器	鉢	2.5Y6/2 灰黄色	10YR5/1 褐灰色	10YR6/2 灰黄褐色	やや粗 粗粒砂を含む	やや良	貼付突帯、ナデ	ナデ	残存高　3.0cm	1/10以下 （口縁部）	断面実測	38
5	SI01 埋土3層目 南東	弥生土器	受口状口縁 甕又は壺	10YR8/2 灰白色	10YR6/6 明黄褐色	N4/0 灰色	やや粗 極粗粒砂を多量含む	やや不良	刺突列点文 剥離著しく不明	剥離著しく不明	残存高　3.7cm 復元口径　12.2cm	1/4 （口縁部）	反転復元 取り上げNo.10	31
6	SI01 埋土3層目 南西	弥生土器	受口状口縁甕	7.5YR7/2 明褐灰色	10YR8/1 灰白色	N5/0 灰色	密 粗粒砂を含む	やや良	刺突列点文 摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　4.8cm	1/8以下 （口縁部）	断面実測 取上No.36	33
7	SI01 埋土3層目 南西	弥生土器	甕	7.5YR8/4 浅黄橙色	5YR7/6 橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	やや密 粗粒砂を含む	やや良	摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　4.3cm 復元口径　13.4cm	1/5 （口縁部）	反転復元 取上No.32 外面に煤付着	32
8	SI01 埋土3層目 南西	弥生土器	高坏	5YR7/4 にぶい橙色	10YR8/3 浅黄橙色	N4/0 灰色	密 粗粒砂を含む	やや良	摩耗著しく不明	摩耗著しく不明	残存高　4.0cm	1/10以下 （口縁部）	断面実測 取上No.35	39
9	SI01 埋土3層目 南東	弥生土器	高坏	5YR6/6 橙色	7.5YR8/4 浅黄色	7.5YR8/1 灰白色	やや粗 極粗粒砂を含む	不良	摩耗著しく不明	摩耗著しく不明	残存高　4.6cm	1/2以下	取り上げNo.2	30
10	SI01南西壁際 （SI01−SK01際）	弥生土器	壺	5YR7/6 橙色	N5/0 灰色	7.5YR8/2 灰白色	やや密 粗粒砂を含む	やや良	摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存長　16.6cm 復元胴径（最大）　29.0cm	1/4 （胴部）	反転復元 No.11の体部とみられる 取上No.51	42
11	SI01 南東床面	弥生土器	脚付壺か	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR8/3 浅黄橙色	密 粗粒砂を含む	やや良	脚部貼付の際の工具痕 不明	ハケメ、未調整	残存高　6.9cm 底径　15.3cm	1/1 （脚部）	取上No.63	3
12	SI01	弥生土器	長頸壺	5YR8/4 淡橙色	5YR8/4 淡橙色	2.5YR7/1 灰白色	密 粗粒砂を含む	やや不良	摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　10.0cm 復元口径　12.6cm	1/4 （口縁部）	反転復元 取上No.50	2
13	SI01	弥生土器	高坏	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	やや密 極粗粒砂を含む	やや良	摩耗のため不明 ミガキの可能性あり	摩耗のため不明 ミガキの可能性あり	残存高　5.2cm 復元口径　23.0cm	1/2 （口縁部）	反転復元 取上No.57	9
14	SI01	弥生土器	高坏	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	N5/0 灰色	密 粗粒砂を含む	やや良	不明（ハケメ又はミガキの可能性あり	ナデ、ハケメ、未調整	残存高　7.7cm 底径　11.2cm	4/5 （脚部）	円形透かし4方向 取上No.56	5
15	SI01 南西壁際	弥生土器	壺又は甕	10YR6/2 灰黄褐色	2.5YR5/1 黄灰色	2.5YR5/1 黄灰色	密 小礫を含む	良	ハケメ、ナデ	ハケメ	残存高　3.2cm 復元底径　4.2cm	1/2 （底部）	反転復元 取上No.48	37
16	SI01 南西壁際	弥生土器	器台	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	密 極粗粒砂を含む	良	ナデ、ヨコナデ ハケメ	ナデ、ハケメ	器高　10.7cm 復元口径　13.0cm 復元底径10.1cm	2/3	部分反転復元 外面に黒斑有 取上No.48	10
17	SI01 南西壁際	弥生土器	コップ形土器	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	密 粗粒砂を含む	良	ケズリ、ナデ	ハケメ、ユビオサエ	器高　7.1cm　口径 6.6cm 底径　4.4cm	7/10	外面に黒斑有 取上No.41	1
18	SI01 床面直上	弥生土器	高坏	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/2 灰白色	密 粗粒砂を含む	良	キザミ文	摩耗のため不明	残存長　2.7cm	1/10以下	断面実測	14
19	SI01南西 床面	弥生土器	高坏	7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	N7/0 灰白色	密 極粗粒砂を含む	やや良	櫛描文 摩耗のため不明	未調整 摩耗のため不明	残存高　7.8cm 胴径（脚部）　4.0cm	1/10以下	7条の櫛描文 取上No.67	36
20	SI01 床面直上	土製品	土玉（土錘か）	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	—	密 粗粒砂を含む	良	ナデ	—	長さ　2.8cm　最大径　3.5cm 穴径　0.55～0.6cm	1/1	外面に黒斑有	16
21	SI01 床面	ガラス製品	小玉	明青色	—	—	—	—	—	—	長さ　0.15cm 最大径　0.58cm　穴径　0.1cm	1/2	気泡を含む	35
22	SI01−SK01 埋土中層	弥生土器	受口状口縁壺	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	N5/0 灰色	やや密 極粗粒砂を含む	やや良	刺突列点文、ナデ ハケメ	ナデ、不明	残存高　5.6cm 口径　15.2cm	9/10 （口縁部）	取上No.52	4
23	SI01−SK01 埋土中層	弥生土器	壺	10YR8/3 灰白色	N3/0 暗灰色	7.5YR8/4 浅黄橙色	密 粗粒砂を含む	やや良	ハケメ、未調整	ハケメ	残存高　12.7cm 復元胴径　19.0cm 底径　5/4cm	1/4	反転復元 外面に黒斑有	7
24	SI01−SK01	弥生土器	壺	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/2 灰白色	N5/0 灰色	密 粗粒砂を含む	良	ナデ	ナデ	器高　8.1cm　復元口径　6.2cm 復元底径　4.8cm 復元胴径（最大）　9.5cm	1/2以下	反転復元 取上No.53	11
25	SI01−SK01	弥生土器	甕又は壺	10YR7/1 灰白色	10YR8/1 灰白色	5PB5/1 青灰色	密 粗粒砂を含む	やや良	摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　2.6cm 底径　4.1cm	2/3 （底部）	取上No.54	40
26	SI01−SK01	弥生土器	壺か	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	密 粗粒砂を多量含む	良	直線文 摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　3.4cm	1/8 （口縁部）	断面実測	28
27	SI01−SK01 埋土最下層	弥生土器	甕	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	2.5Y6/1 黄灰色	密 粗粒砂を少量含む	良	ナデ、ハケメ	ナデ	残存高　2.6cm	1/8 （口縁部）	断面実測	26
28	SI01−SK01 埋土最下層	弥生土器	甕	5YR7/4 にぶい橙色	5YR8/4 淡橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	密 中粒砂を少量含む	良	ナデ	ナデ	残存高　1.6cm	1/10以下 （口縁部）	断面実測 外面に煤付着	23
29	SI01−SK01 埋土中層	弥生土器	甕	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/1 灰白色	密 極粗粒砂を含む 長石を含む	良	櫛描文、刺突列点文 波状文、ハケメ、ナデ	ナデ	残存高　25.1cm　底径　4.9cm 胴径（最大）　23.0cm	4/5	口縁部欠損 外面下半に煤等付着	17
30	SI01−SK01 埋土中層	弥生土器	受け口状口縁 甕又は壺	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR6/1 褐灰色	密 中粒砂を多量含む	良	ナデ	ナデ	残存高　1.9cm	1/8 （口縁部）	断面実測	25
31	SI01−SK01	弥生土器	甕又は壺	10YR8/2 灰白色	N3/0 暗灰色	N6/0 灰色	やや粗 粗粒砂を多量含む	良	ナデ	摩耗のため不明	残存高　1.6cm 底部径　3.7cm	1/1 （底部）		29
32	SI01−SK01 埋土中層	弥生土器	高坏	5YR6/6 橙色	5YR7/6 橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	密 極粗砂を含む	やや不良	ハケメ	ナデ、未調整	器高　10.9cm　復元口径 15.1cm 復元底径　10.2cm	1/2	部分反転復元 円形透かし3方向 外面に黒斑有	8
33	SI01−SK01 埋土　1層目	弥生土器	高坏	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	10YR5/1 褐灰色	密 粗粒砂を多量含む	良	ナデ	ナデ	残存高　2.9cm 復元口径　17.8cm	1/4 （口縁部）	反転復元	27
34	SI01−SK01 埋土中層	弥生土器	高坏	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR8/2 灰白色	10YR5/1 褐灰色	やや密 粗粒砂を多量含む	良	ナデ	ナデ	残存高　2.5cm	1/10 （口縁部）	断面実測	24
35	SI01−SK01 埋土上層	弥生土器	高坏又は器台	10YR8/2 灰白色	10YR8/1 灰白色	N5/0 灰色	密 粗粒砂を含む	やや良	不明 ミガキの可能性あり。	ナデ、不明	残存高　7.8cm 復元底径　10.0cm	7/10 （脚部）	部分反転復元 円形透かし6単位（3つずつに分かれる）	6
36	SI01−SK01 埋土最下層	土器片	不明	N5/0 灰色	N6/0 灰色	N6/0 灰色	やや密 中粒砂を含む	良	ハケメ、ナデ	ハケメ	長さ　3.6cm 幅　2.9cm	不明	高温で焼けている、硬質 還元色（青灰色）を呈する	41
37	SI02 埋土中層	弥生土器	壺	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR8/1 灰白色	密 極粗粒砂を含む	やや不良	ハケメか	摩耗のため不明	残存高　3.7cm 復元口径　18.4cm	1/4 （口縁部）	反転復元 円形浮文2個単位	19
38	SI02 埋土中層	弥生土器	壺	5YR7/6 橙色	5YR7/8 橙色	7.5YR7/6 橙色	やや密 極粗粒砂を含む	やや良	直線文、摩耗著しく不明	摩耗著しく不明	残存高　4.1cm 復元口径　15.4cm	1/4 （口縁部）	反転復元 取上№①	12
39	SI02	弥生土器	甕	5YR7/4 にぶい橙色	10YR6/1 褐灰色	7.5YR7/4 にぶい橙色	やや密 粗粒砂を含む	やや良	直線文、ナデ	ナデ	残存高　2.1cm	1/10以下 （口縁部）	断面実測	21
40	SI02 埋土上層	弥生土器	受口状口縁壺 又は甕	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR7/1 灰白色	7.5YR8/2 灰白色	密 極粗粒砂を含む	やや良	刺突列点文 摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　3.5cm	1/10以下 （口縁部）	断面実測	20
41	SI02 SP02	弥生土器	受口状口縁甕	10YR6/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	やや密 粗粒砂を多量含む	やや不良	刺突列点文、ハケメ 摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　2.5cm	1/8 （口縁部）	断面実測 取上No.69	18
42	SI02 壁溝際埋土下層	弥生土器	高坏	7.5YR8/4 浅黄橙色	N4/0 灰色	N3/0 暗灰色	密 中粒砂を含む	良	摩耗のため不明	摩耗のため不明	残存高　3.2cm	1/10以下 （口縁部）	断面実測 取上№③	22

表3　物部遺跡 26 次調査出土遺物観察表（2）

報告書掲載番号	出土遺構	器種	器形	法量	備考	実測番号
S1	SI01 1層目	礫石器	砥石	長さ 9.0cm 厚み 4.8cm 幅 6.6cm 重量 354g	取上No.8	S8
S2	SI01 南東壁際	礫石器	砥石	長さ 23.6cm 厚み 6.4cm 幅 7.5cm 重量 1643g	取上No.61	S6
S3	SI01 南東壁際	礫石器	砥石	長さ 12.8cm 厚み 5.7cm 幅 7.0cm 重量 843g	取上No.62	S7
S4	SI01 床面	礫石器	砥石	長さ 12.0cm 厚み 1.9cm 幅 12.4cm 重量 261g	取上No.68	S4
S5	SI01-SK01 上層	礫石器	不明	長さ 5.5cm 厚み 3.5cm 幅 4.6cm 重量 128g		S1
S6	SI01-SK01	礫石器	砥石	長さ 28.1cm 厚み 8.3cm 幅 8.6cm 重量 3410g	焼けあり 取上No.60	S3
S7	SI02 中層	礫石器	不明	長さ 14.7cm 厚み 2.2cm 幅 6.5cm 重量 321g	石No.1	S5
S8	SI02 床面	礫石器	不明	長さ 16.4cm 厚み 3.1cm 幅 13.1cm 重量 942g	石No4	S2

第４章　総括

今回の調査では竪穴建物２棟が検出された。そのうちSI01とした１棟は、復元規模長軸９ｍの大型竪穴建物である可能性が高い。検出出来た範囲では軸長約8.2mであるが、規格性をもって作られたものとして復元してみると約９ｍとなる。隅丸方形のため、単純に面積を出すことは出来ないが、約67㎡となるものとみられる。

建物の構造は一般の竪穴建物と同様であり、主柱穴は２個検出したが、位置や大きさについては本数が多かったり、巨木を使用したような状況は見られなかった。また、壁際に溝が認められたが、部分的に不明瞭な所があり、溝として機能していたものではなく、築造のさいに掘削道具による掘り方が壁際で深く入ったものかもしれない。土坑は南辺にあるSK１と、中央にあるSK２および東辺に検出されたSK３がある。建物中央付近を南北方向にSK２を避けるようにSK１（南辺土坑）に向けて細長い溝が走っていた。SK１とは連結しないが、排水目的であろうか。

出土遺物については、埋土各層に含まれる土器の時期差はそれほどない。埋土中の土器は縄文土器など、時期的に古い土器が混じっていることから、単純に埋土中の土器の方が新しいということはいえない。埋土中の土器は、小破片が多く、摩耗した土器が多いことから、埋没過程で入ったものや、建物構築時以前に存在した土器片などが混入しているものとみられる。ただし、埋土中にそれほど新しい要素の土器が見られるわけではなく、比較的短期間に埋没していったものとみられる。SI01は出土土器から弥生時代後期前半の時期とみられる。

SI02もSI01同様周壁溝をもつ竪穴建物とみられるが、ごく一部を調査したにすぎないため、規模等の詳細は不明である。SI02もSI01同様の弥生時代後期の建物であるとみられる。

今回調査した場所の南側では７次調査として発掘調査が行われている。今回の調査で検出した竪穴建物はおそらく７次調査Ｂ区で検出した竪穴建物群の続きであるとみられ、北側に集落が広がっている状況が確認できた。７次調査では弥生時代後期の集落東端が検出されている。出土遺物は巴形銅器、ガラス玉、ミニチュア土器等の祭祀遺物が出土している。今回の調査では竪穴建物としては大型であるが、明瞭に祭祀遺物とみられるものは確認できなかった。

今回は７次調査の遺構との時期的な検討は出来なかったが、今後７次調査の結果を含めて遺跡の時期を詳細に検討することで、物部遺跡の集落の時期や性格などが明らかになることと思われる。今回の調査では弥生時代後期の大規模集落遺跡であることをうかがわせる調査結果となったが、今後の調査に期待したい。

参考文献

高月町教育委員会　1997. 1「物部遺跡現地説明会資料」（7次調査）
高月町教育委員会　1997. 9「物部遺跡現地説明会資料」（8次調査）
高月町教育委員会　2006. 3『高月の主要古墳Ⅱ―後・終末期古墳の調査―』
高月町　2006.12『高月町史（景観・文化財編　分冊二）』
長浜市教育委員会　2013.12『長浜市埋蔵文化財調査資料第142集
平成24年度小規模開発関連発掘調査報告書』

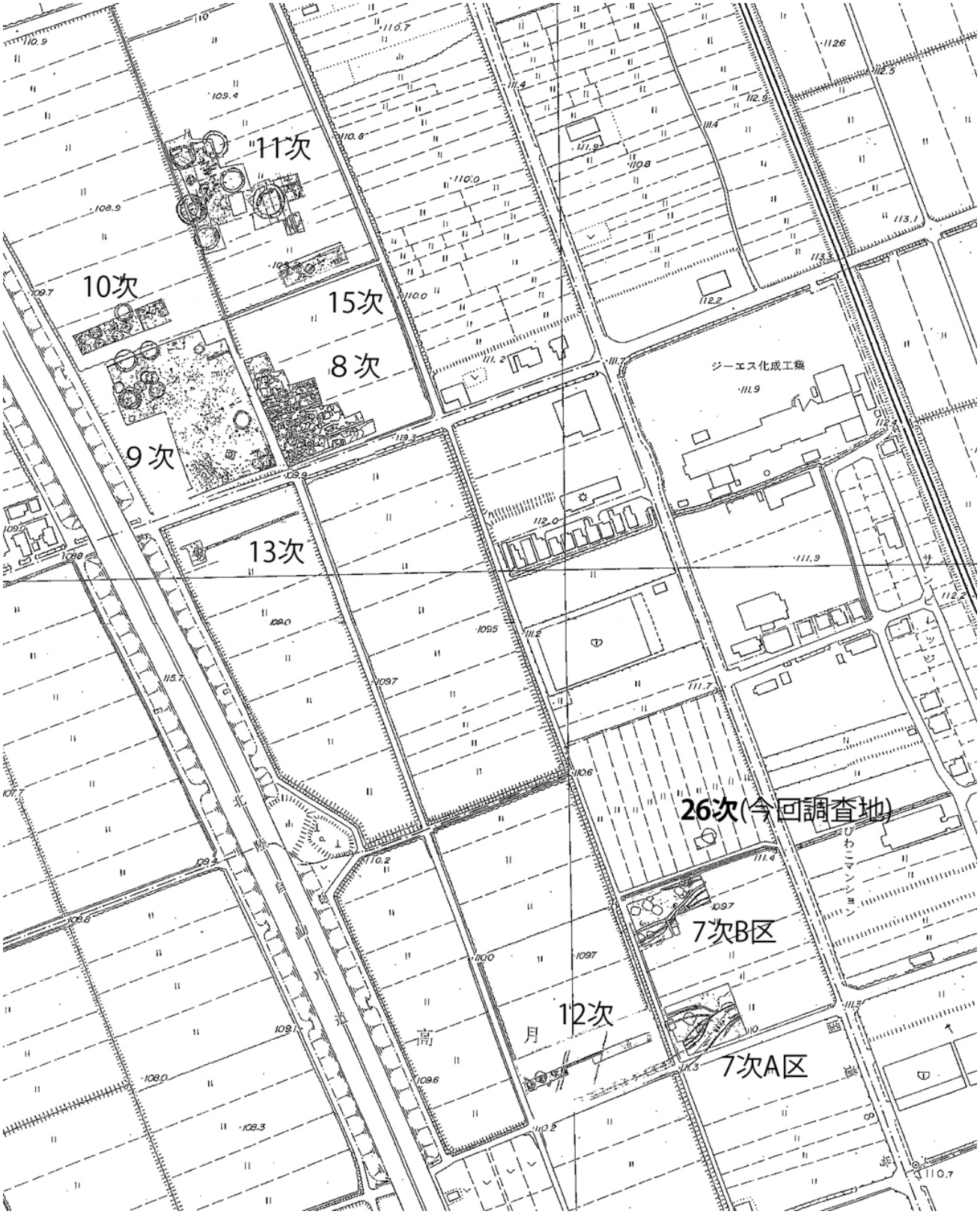


図 19　周辺調査状況図

表4　物部遺跡発掘調査（確認・本掘調査）一覧

調査次数	年度	対　応	調査原因	検　出　遺　構	出　土　遺　物	時　　代
1次	H1	確認調査	個人住宅	掘立柱建物・ 溝状遺構（方形周溝墓）・ 土坑（土壙墓か）・ピット	弥生土器・須恵器	弥生後期 6世紀後葉～7世紀中葉
2次	H5	本掘調査	個人住宅	溝・土壙・ピット・柱穴	須恵器・鉄滓	6世紀後半～7世紀後半
3次	H5	本掘調査	個人住宅	溝・掘立柱建物・土壙	須恵器	6世紀末
4次	H6	本掘調査	民間開発	自然流路状遺構数条・ ピット等	土師器・灰釉陶器	
5次	H6	本掘調査	個人住宅	溝・土壙・柱穴・落ち込み	土師器・須恵器・灰釉陶器・ 管玉未製品	7世紀代
6次	H6	本掘調査	民間開発	溝5条・ピット	縄文土器・須恵器	縄文後期末～晩期、7世紀初
7次	H6	本掘調査	民間開発	竪穴住居（焼失住居）・ 掘立柱建物・土坑・溝・ピット・ 環濠	弥生土器・土師器・須恵器・ 巴形銅器・ガラス玉・ ミニチュア土器・鉄滓・ 碧玉製管玉製作関係遺物	弥生時代中期～古墳時代前期 古墳時代後期以降
8次	H6	本掘調査	民間開発	竪穴住居・掘立柱建物・溝・ 土坑・井戸	土師器・玉作関連遺物	古墳時代前期前半
9次	H10	本掘調査	民間開発	竪穴住居・掘立柱建物・ 古墳・溝・土坑・ピット	縄文土器・土師器・須恵器・ 玉作関連遺物	縄文時代晩期、弥生時代終末期、古墳時代
10次	H12	本掘調査	民間開発	竪穴建物・古墳（円墳）・ ピット・土壙	土師器・須恵器	弥生時代終末期、古墳時代後期
11次	H12	本掘調査	民間開発	竪穴建物・掘立柱建物・ 古墳（円墳）・ピット・土壙	土師器・須恵器	弥生時代終末期、古墳時代後期
12次	H13	本掘調査	民間開発	竪穴建物・ピット・溝・土坑	弥生土器・須恵器・石	弥生時代後期
13次	H14	本掘調査	民間開発	土坑・ピット	土師器・石斧	弥生時代終末期
14次	H16	本掘調査	墓地造成	竪穴建物	土師器	3世紀後半
15次	H18	本掘調査	民間開発	竪穴建物・掘立柱建物・ ピット・溝	土師器・石杵・石	弥生時代終末期～古墳時代初期
25次	H25	本掘調査	個人住宅	ピット・土壙	須恵器・土師器	古代
26次	H25	本掘調査	民間開発	竪穴建物	弥生土器・縄文土器・ 石製品・ガラス小玉	弥生後期

図　　版

図版1

調査前状況
（北西から）

重機掘削状況
（北西から）

作業状況
（南から）

図版2

遺構検出状況
（東から）

SI01 床面付近
遺物出土状況
（西から）

SI01 床面
遺構検出状況
（南から）

SI01
土層断面
（北西から）

SI01-SK１
検出状況
（南から）

SI01-SK１
土層断面
（西から）

図版4

SI01-SK１
完掘状況
（北から）

SI01-SK２
検出状況
（南東から）

SI01-SK２
土層断面
（西から）

SI01-SK２
完掘状況
（南から）

SI01-SK３
土層断面
（北東から）

SI01-SP１
土層断面
（西から）

図版6

SI01-SP２
土層断面
（西から）

SI01-SP３
土層断面
（南から）

SI01-SD１
土層断面
（南から）

SI01 完掘状況
（東から）

SI01 完掘状況
（南から）

SI01 完掘状況
（北東から）

図版8

SI01
土玉出土状況
（南から）

SI02
遺物出土状況
（東から）

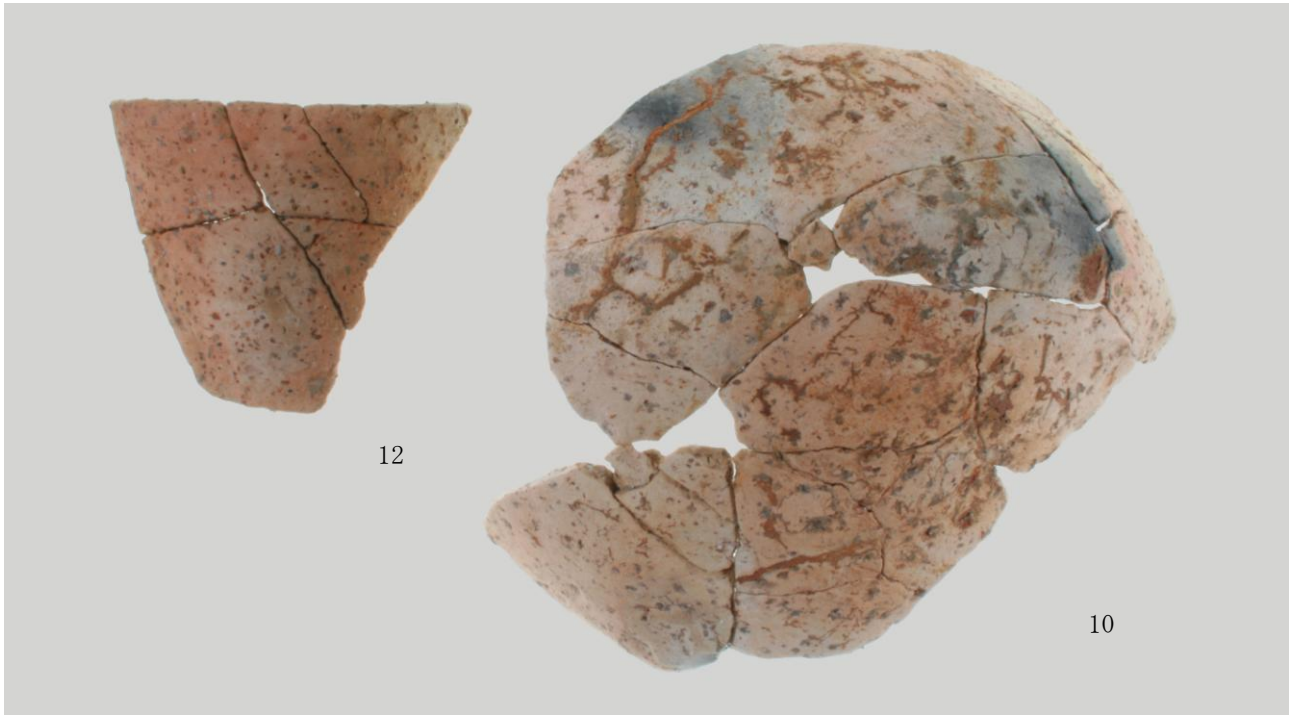
SI01 完掘状況
（東から）

トレンチ壁面
土層断面
（南から）

埋戻し状況
（西から）

埋戻後状況
（西から）

図版10



13

14

16

17

15

18

19

20

図版12

22

32

23

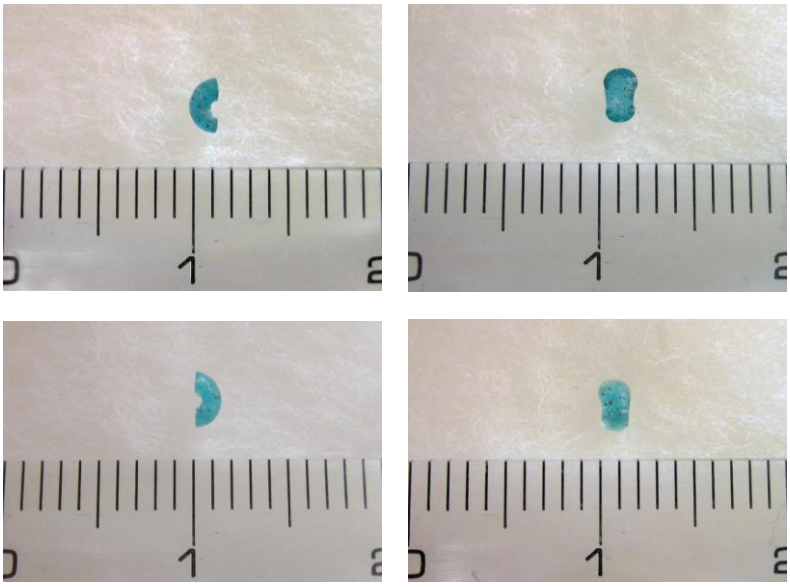
35

29

24
25
26
27
28
31
33
30
34
36

S1
S2
S3
S4
S5
S6

図版14



21　（S≒5×）

報　告　書　抄　録

ふりがな	ものべいせきだい 26 じちょうさほうこくしょ
書名	物部遺跡第 26 次調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	長浜市埋蔵文化財調査資料
シリーズ番号	第 145 集
編著者名	沢村 治郎
編集機関	長浜市教育委員会
所在地	〒526-8501　滋賀県長浜市高田町 12-34　TEL0749-62-4111
発行年月日	西暦 2014 年３月

所収遺跡	所在地	市コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
物部遺跡 （26 次）	滋賀県長浜市 高月町東物部	25-203	35° 28′ 59″	136° 13′ 46″	平成 25 年９月 25 日～ 平成 25 年 10 月 24 日	91 ㎡	ガソリンスタンド・店舗建築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
物部遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴建物	弥生土器 土玉 ガラス小玉 礫石器	軸長が９ｍ近い大型竪穴建物

2014年３月31日

長浜市埋蔵文化財調査資料　第145集

物部遺跡　第26次調査報告書

編　集　滋賀県長浜市教育委員会

発　行　教育総務課　文化財保護センター

滋賀県長浜市東上坂町981

TEL0749-64-0395　　FAX0749-62-6357

印　刷　株式会社　シバタプロセス印刷